

NPO法人 Mama's cafe (多治見市)

中心市街地

子育て支援

取組の背景

多治見市は、都会のベッドタウンとしての地理的条件を備え、核家族化が進展しており、子育てに関心を持つ母親が多かった。(子育て相談、子育てしながら働く場所の確保など)

そこで、

○平成9年3月

平成9年生まれの子どもとその母親を対象とした「ナインキッズクラブ」子育てサークルを設立

○平成13年6月

サークルの一部のメンバーを中心に“Mama's Style Club”という子育てママの企画クラブを設立

○平成13年12月

メンバーとともに「子どもと一緒に働ける場」として“Mama's cafe”をオープンする。

○平成14年

産業経済省の「市民ベンチャーモデル事業」に採択される。

○平成17年2月

現在の多治見市総合福祉センター内へ移転

取組の概要

多治見市総合福祉センター内において、子どもと一緒に働ける場所をコンセプトに、喫茶店“Mama's cafe”を開業。

店内は、子どものプレイスペースを備え、子育て中の母親の視点を生かしたメニューを提供したり、地域の母親の手作り雑貨等の販売も行っている。



Mama's cafe とメンバー

取組の内容

主な取り組みとして

【飲食の提供】

子育て中の母親の視点を活かしたメニューで、ランチ等を提供（子育て中の母親へ、好き嫌いのある子ども達に対するアイデア料理レシピ等も提供）

【物販】

地域の母親の手作りによる雑貨等の販売

【イベントの開催】

父親・母親・子どもがともに参加し、親子の絆を深める、パパママW教育などのイベントを開催

成果

○会員数は約600名

東濃地域を中心に顧客会員は約600名（会員費無料）となっており、“Mama's cafe”は、子育てを中心とした世代間交流の場としての地域拠点であるだけでなく、子育てを卒業した母親や高齢者の方の仕事づくりの場という役割を担っている。

○雇用の場の提供

通常、子育て中の母親が、小さな子どもを抱えて仕事を得ることは難しく、仕事の間、子どもを保育園に預けるにも費用がかかるが、ここ“Mama's Cafe”では、「子どもと一緒に働ける」ことができ、経済的メリットが得られるうえ、社会参画しているという生きがいにもつながっている。

○企業からの協力

地道な活動を続ける中で、イベント等の開催に対しては民間企業からの協力も得られるようになった。

成果の要因

○地理的要因

多治見市という名古屋市のベッドタウンという地理的位置にあり、住民の核家族化が進

んでいることから、昼間1人になる母親から子育てに関する相談を等の受け皿として活動が行われる素地があり、住民のニーズを上手く拾い上げることができた。

○人的要因

理事長である山本氏の精力的な努力とリーダーシップに加え、団体の活動に対しメンバーが積極的に参加したことが大きい。

今後の課題

○経済的基盤の確立

このことについては、他のNPO法人と同じであるが、事業規模が小さいために経済的基盤が確立していないのが現状である。

今後の方針としては、他事業への進出することで新たな展開を模索している（例として、産褥期の母親や子育てに対して人手が足りない母親等に対し人的応援をおこなうヘルパー事業など）。

○人材の養成及び確保

事業を行っていく上で、専門的知識を持つ人材を養成及び確保していくことは重要であるが、今後事業展開していく上でいかにして対応していくか検討を要する。

行政への期待

行政による財政的支援が必要である。現在はつらつファンドを活用して、会員誌を作成しているが、まだまだ経済的基盤は脆弱である。

この人にお話をうかがいました！

NPO法人 Mama's café
理事長 山本博子さん

調査日：平成18年10月26日（木）

調査者：健康福祉政策課 小泉

東濃振興局 楓